

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

398号

2024年5月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

韓統連大阪本部第17期定期総会開催 新たに金昌範(キム・チャンボム)代表委員を選出

韓統連大阪本部第17期定期総会が4月21日(日)、KCC会館(大阪市生野区)で開催された。総会では民衆儀礼の後、金隆司(キム・ユンサ)大阪本部代表委員が代表委員挨拶を通じ「今日の総会は、この間の活動の成果を土台に第17期大阪本部の基本方針などを確認するとともに、新執行部を選出する大切な総会です。会員の皆さんと討論を深めながら、良い総会としていきましょう」と語った。

次に、宋世一(ソン・セイル)韓統連中央本部委員長が挨拶を行い「先日の総選挙結果は、国民が尹錫悦政権に厳しい審判を下した。今後の尹政権退陣闘争では韓統連大阪本部の役割が非常に大

きい。これからも力強く闘っていこう」と語った。

続いて、李哲(イ・ Chol)在日韓国良心囚同友会代表から連帯挨拶が行われた後、議案審議に入り、2023年事業総括案及び決算報告、第17期大阪本部基本方針案と当面の事業日程、予算案が一括提案され、質疑討論を経て採択された。

そして役員改選が行われ、新たに金昌範代表委員、孫啓榮(ソン・ゲヨン)副代表委員、夫義澤(フ・ウイテ)監査が選出され、崔誠一(チェ・ソンイル)事務局長が指名されるとともに、李鉄(イ・ Chol)常任顧問、金隆司顧問、金昌五顧問が推戴された。

金昌範新代表委員は就任挨拶で「私は皆さんと共に共有したい組織と運動の考えは二つあります。一つは、今ある組織と人をより有効に活かしながら組織の力を強くすること。もう一つは、統一という課題とあらためてまっすぐに向き合う作業を

行うことです。これから、この時代を皆さんとともに歩んでいけることを光栄に思います」と抱負が語られ、最後に趙暎和(チョ・ヨンファ)韓青大阪本部委員長、車有悟(チャ・ユウ)韓統連大阪本部文教科員から決意表明が行われた。

●6年ぶりに「連帯の夕べ」を開催

総会后、会員及び地域同胞、日本の連帯勢力が参加する中「連帯の夕べ」が開かれた。

夕べは1部・2部形式で進行され、1部では金隆司顧問が主催者挨拶を行った後、宋世一委員長が記念講演を行った。宋委員長は講演を通じ「今、

世界は米国の一極支配から多極化へと進んでいる。このような米国の没落の要因は▲米国が戦争国家であること。▲ドルの破綻。▲米国内における民主主義が破綻していることにある」と指摘し、「このような没落を回避するために米国は韓国・日本などの同盟国との関係強化を図りながら、新冷戦覇権政策をとっている」と語った。

そして「私たちは朝鮮半島で絶対に戦争を起こしてはならない。そのためには韓国に自主的民主政府を樹立しなければならない。米国に追従する尹錫悦政権を早期に退陣させよう」と訴えた。

記念講演後の第2部では、食事を交えながら日頃から連帯関係にある各団体代表からのスピーチをはじめ文化発表、功労者表彰、金昌範代表委員から新執行部の紹介が行われ、最後に孫啓榮副代表委員が閉会挨拶を行った。



▲総会后、金昌範新代表を中心に全体記念写真

【就任挨拶】

ブレずに、小さな覚悟を抱きながら

韓統連大阪本部代表委員 金昌範(キム・チャンボム)

第17期の韓統連大阪本部は大きな試練の海へと出帆します。

朝鮮半島では韓米による戦争挑発が繰り返され、戦争準備のレベルも日本が本格的に加わって飛躍的に高まっています。朝鮮民主主義人民共和国(以下主に北側と表記)は対抗策を強めるとともに、朝鮮半島問題に対する政策を大きく転換させることになりました。

昨年末から今年初め、北側は相次いで南に対する評価と政策の変更、すなわち「大韓民国は和解と統一の対象ではなく、最も敵対的な国家であり、(南北)両国は完全な交戦国関係に固着された」という現実認識と、それに伴う政策転換を発表しました。文在寅政権の対北政策の後退、尹錫悦政権の徹底した対北敵

視の態度に続いたこの政策転換発表は、在日同胞社会及び一部日本の運動にも影響を及ぼし始めています。安易に読み流してしまうと統一への道が完全に破綻したとも受け取れかねない文言です。しかし、これら一連の文脈には下記のように留意すべき点があります。

- ① これまでの北側の祖国統一方針は正当で合理的だと根本的には否定していないこと。
- ② 南北和解から南北敵対へと逆流させたのは、南側による北の崩壊と吸収統一方針及び韓米のエスカレートする戦争策動であること。
- ③ そのことから北は戦争策動に対備し、国家防衛に今後徹頭徹尾注力することなど。

逆読みすれば南が対北敵視をやめ、韓米(日)による戦争準備・戦争挑発策動が解消されれば、再び南北関係が好転し、統一への流れも生み出すことができます。

ボールは私たちのものに投げ込まれました。統

一の旗を降ろすことなく、むしろ祖国の平和と統一の意味を、たくさんの人たちと噛みしめ、再確認していきたいと思います。

一方で祖国の平和を実現するうえで考えることがあります。

今、世界の軍事化が進んでいます。世界の軍事費が増大の一途を辿り作られてきた構造(その最大の元凶は米国)の中で実際に戦争が続いていますが、この日本でも、そうした世界の流れに抗拒

し、民衆同士がつながり合う世界の実現のため闘っている人たちがいます。パレスチナ民衆連帯のためにデモ行進をし歌う輪の中で、私もひとりの参加者として情熱を発露する機会がありますが、そこではいつも共感と同時に重い現実感を抱いて帰ってきます。それはそうした集まりにいる人々の

大半は、こと朝鮮半島の戦争危機となると、その実感が希薄であるということです。おそらく関心が無くは無いが、知らないか、よく解からないということだと推測しています。朝鮮問題を伝え、まず知ってもらうことを通じ、平和連帯の地平を広げることが必要だと思います。

大阪では同胞と日本人による朝鮮半島の平和と統一を支持し連帯する運動が、長年にわたり多くの先輩や友人たちの努力によって築かれてきました。その土台を活かし発展させることが今、韓統連に求められていると思います。

自らに課す要求に比べ、力は小さく一時にできることは限られていますが、ブレずに、小さな覚悟を常に胸に抱き、仲間と語り合いながら実践することによって、力はつながり徐々に大きくなって、やがて現実を動かし始めると信じています。

共に歩んでいきましょう。



▲総会で抱負を語る金昌範代表委員

【情勢分析】

キャンドル革命第2幕の始まり 尹錫悦政権に審判を下した第22代韓国総選挙

4月10日、尹錫悦(ユン・ソクヨル)政権執権2年目に行われた第22代韓国総選挙の結果は、野党が192議席。与党が108議席で野党圧勝、与党惨敗に終わった。韓国民は尹錫悦政権に対して不信任の審判を下したのだ。

野党勝利の第1の要因は、民主・進歩陣営の団結だ。ともに民主党と進歩党と新進歩連合と市民社会団体は、比例区用の政党として「ともに民主連合」に結集し、地方区においても候補一本化を実現して、与野党1対1の構図を作ることに成功した。祖国革新党も「比祖、地民(比例区は祖国革新党、地方区は民主党)」というスローガンを掲げ野党候補の一本化を後押しした。



▲勝利を確信し、握手を交わす李在明代表(中央)

野党勝因の第2の要因は、検察独裁の一日も早い終息を掲げて登場した曹國(チョウ・グク)氏を党首とする祖国革新党が巻き起こした一大旋風だ。それまでの韓東勲(ハン・ドンフン)与党代表VS李在明(イ・ジェミョン)野党代表という対決構図が、祖国革新党の登場によって尹錫悦VS国民という対決構図に変わり、「3年(尹錫悦政権の残り任期)は長すぎる」というスローガンは、尹錫悦政権に対して怒りを募らせる国民の共感を呼び、日を追うごとに尹錫悦審判の声が高まっていったのだ。

新たな国会の議席分布は、ともに民主党169、国民の力108、祖国革新党12、進歩党3、改革新党3、市民社会団体2、新進歩連合2(基本所得党1、社会民主党1)、新しい未来1だ。保守系の改革新党を除外した民主・進歩陣営が団結すれば、20議席で院内交渉団体の構成が可能と

なり、国会運営はよりいっそう野党が主導権を握ることになるだろう。



▲「3年は長すぎる」のプラカードを掲げる曹國党首

尹錫悦大統領は、閣議で総選挙結果に対する見解を明らかにしたが、国民に対する謝罪の言葉もなく国民の怒りを買っており、国民の審判を受け入れた政権運営の転換は期待できないだろう。

今後は、国民の圧倒的な支持を得た野党絶対多数の国会が韓国政治を指導していかなければならない。国民生活に直結した民生問題など各種法案を迅速に処理するとともに、尹錫悦政権の拒否権発動によって葬られた梨泰院(イェウオン)惨事特別法、金建希(キム・ゴン)大統領夫人特別検事法、労働関連法など重要法案の再論議が行われることになるだろう。

尹錫悦大統領の求心力は急速に弱まっており、もし従来同様拒否権行使の暴挙に出たとしても8名以上の与党議員が造反すれば、国会議席の3分の2を占めることになり拒否権は無力化される。それでも尹錫悦政権が強権政治を続けるならば、いよいよ政局は大統領弾劾へと発展していくだろう。キャンドル革命の第2幕の始まりだ。

(金五)



【翻訳資料】

大統領の席はまたも空席

国家不在が浮き彫りになったセウォル号惨事10周年忌記憶式

昨年に続き、今年も4・16セウォル号惨事犠牲者を偲ぶ記憶式に尹錫悦大統領は出席しなかった。遺族は尹大統領の名前が記された椅子を用意したが、行事が終わるまで席は空いていた。304人の罪なき命が犠牲になったセウォル号惨事の10周年忌、市民たちは変わることなく「真実を隠ぺいする国家」「国民の生命を尊重しようとしな

い国家」に対し責任を問うた。16日、京畿道鞍山市檀園区花郎遊園地で開かれたセウォル号惨事10周年忌記憶式のテーマは「2014年4月16日の記憶・約束・責任」だ。黄色いリボン、蝶の形をした追悼バッジをつけた3500人余りの市民が参加した。

記憶式には黄色いジャンパーを着たセウォル号惨事遺族、紫色のジャンパーを着た梨泰院惨事遺族が対面し、国家的惨事で家族を亡くした痛みを共に分かち合った。

主な出席者の追悼辞では「国家の役割」を促す発言が続いた。

金東克京畿道知事は、セウォル号惨事10周年忌を迎えて遺族が記した本「責任を問う」を引用し「セウォル号惨事当時の朴槿恵政権のように、尹錫悦政権は梨泰院惨事の真相究明を妨害している」と述べ「最後まで諦めない」と語った。

金グアンジュン4・16財団理事長は、セウォル号惨事以後「我々の社会は、この10年を無為に過ごしてきた」と指摘した。金理事長は「一丸となって叫んだ要求、訴え、真実究明、責任者処罰、再発防止など、どれ一つとしてまともに行われたことがない。過去10年間、この地に与えられた宿題をどれ一つとして解決できなかったと言っても過言ではない。だからこそ梨泰院惨事などのような惨事が相次いで発生しても、何らおかしくない社会になってしまった」と指摘した。

そして「勇気を持って力を出し、私たちの生命、

安全を脅かす全ての勢力とひたすら闘っていかなければならない」と述べながら、「今日はもう一つの第二のセウォル号精神を宣言し、決意を固める旅路の出発点だ。セウォル号惨事だけでなく、この地の数多くの災害惨事とその犠牲者に対する社会的関心を呼び起こす出発点が今日でなければならない」と訴えた。

檀園高校2年1組の故金スジンさんの父親である金ジョンギ4・16セウォル号惨事家族協議会運営委員長は、尹錫悦政権に「セウォル号惨事抹



▲記憶式が終わるまで尹大統領の席は空いていた

消を中止し、国家暴力に対する公式謝罪と国民の生命と安全を守る当然の責務を果たせ」と要請した。金委員長は「遅れたが、今からでも社会的惨事特別調査委員会の勧告事項を履行せよ」と述べ「国民の生命、安全のために生命安全基本法を制定せよ。また10・29

梨泰院惨事特別法を制定せよ」と声を上げた。

金委員長は「遺族はあきらめず、これからの10年も完全な真相究明と責任者処罰、安全な社会を作るためにさらに懸命に努力し、行動していく」と述べ、「誤った過去を記憶せず、変えていかなければ大韓民国は、我々の社会は一步も発展しないということを必ず心に刻まなければならない」と強調した。

記憶式の最後には、セウォル号惨事と梨泰院惨事を経験した1997年生まれの金ジェさんの犠牲者に向けた記憶の手紙、詩人チョン・ホソン氏のセウォル号10周年忌の追悼詩などが朗読された。

老若男女、障害者と非障害者など市民4160人で構成された合唱団は、セウォル号事故追悼の意が込められた「安らかにいて」「真実は沈まない」「忘れないよ」など6曲を続けて歌い、追悼式の思いを深めた。(韓国インターネット新聞“民衆の声”4月16日付)

【投稿】

北の統一路線(対南政策)の転換を考える

～問われているのは南～

金恨(キム・ハン)

朝鮮が統一路線(対南政策)を大きく転換した。昨年末、金正恩委員長は過去の南北関係を「接触と中断、対話と対決の悪循環を繰り返してきた」と総括し、われわれの「政権崩壊」と「吸収統一」を放棄しない南は「和解や統一の相手」ではなく、「敵対的な交戦国(主敵)」であると規定した。さらに「南の戦争挑発策動(韓米合同軍事演習)」に対抗して、「われわれは戦争を願わないが、決して避ける考えもない」とし、「核には核で、正面对決には正面对決で応えていくための体制(軍事的能力)をより整備していく」と警告した。

尹錫悦政権の韓米日軍事同盟体制強化による対北敵視政策、対北強硬政策に対する北からの最強の超攻撃的な回答だ。

◆銃は先に向けた側が

降ろさなければならない

なぜ北はこれほど大きく変わったのだろうか。

思い起こされるのは、6

年前の第3回南北首脳会談(板門店)での金正恩委員長の発言だ。「今まで何度も良い合意をしてきたけれども、実行されたものは何一つありません。良い宣言を出しても実行されなければ何の意味もありません。今度こそ実現させましょう」。

金大中大統領との「6・15共同宣言(2000年)」は統一の里程標と言われ、盧武鉉大統領との「10・4宣言(2007年)」は統一の実践綱領とまで言われたが、李明博政権で破棄され、金剛山観光も、開城工団も中断されたままだ。金委員長の言葉には「今回はしっかり守ってくださいよ」という強い思いが込められていたことだろう。しかし、アメリカの圧力により「板門店宣言」は1年も経たないうちに紙切れとなってしまった。対米従順の文在寅政権から対米従属の尹錫悦政権に変わり、事態はさらに悪化した。

「通常の防衛的な軍事演習」という名の下に行われている韓米合同軍事演習の本質は、「標的の除去(平壤制圧・金正恩委員長殺害)作戦」だ。尹政権になって韓米合同軍事演習は、量的にも質的にも飛躍的に拡大した。日本の自衛隊も参加し、この夏には核戦争を想定した演習が予定されている。

今、朝鮮半島は南・北がお互いに銃を向き合った危険な状況だ。北を従来の「和解と統一路線」に戻すためには、先に銃を向けた南が銃を降ろさなければならない。



▲「私たちの願うのは平和」とアピールする韓国民衆

◆南が変わらなければならない

「分断」は矛盾であり、矛盾があるところには必ず「運動」が起こる。「運動」には法則性があり、それを「必然性」とよぶこともある。統一は民族の悲願であり、歴史の必然でもある。祖国統一は今、大きな試練に立たされているが「分断時代」が永遠に続くことない。

同じ失敗を繰り返さないために北の若き指導者が過去を総括し、新たな方針を出す事は不合理なことではない。金委員長は「植民地属国であり、同族意識が骨抜きになった大韓民国の連中とは民族中興の道、統一の道をともに歩めない」という結論を出した。彼を説得するためには、南が「植民地属国」でなく、北との「同族意識が骨抜き」になっていないということ、言葉ではなく行動で示さなければならない。そのためには尹錫悦政権を一日も早く退陣させ、南北合意を実現できる、米国に従属しない自主的民主政権の誕生を急がなければならない。

南が本気で統一を考えているならば、北の路線転換を批判するのではなく、真摯に受け止めて誠実な回答をすることだ。

朝鮮半島の軍事緊張を高める

韓米日合同軍事演習に反対しよう！

4・27鶴橋アクション

昨年引き続き、朝鮮半島周辺で韓米日合同軍事演習が頻繁に実施される中、韓統連大阪本部と韓青大阪本部の共催で「4・27鶴橋アクション 韓米日合同軍事演習に反対し、朝鮮半島の平和と統一を実現しよう！」が4月27日(土)、JR鶴橋駅前で行われた。



▲ビラなどを通じて朝鮮半島の平和実現を訴える

鶴橋アクションでは、ハンドマイクを通じて「韓米日の合同軍事演習によって朝鮮半島の軍事緊張が高まっている。軍事演習に反対して、一日も早い朝鮮半島の平和を実現するために声を上げよう」と訴えるとともに、ビラ配布とプラカードアピールを行った。

当日はGW(連休)初日ということもあり、人通りは多く、プラカードに注目する人、ビラを受け取り問いかけてくる人などの反響があった。

公権力による弾圧に屈せず

裁判闘争に勝利しよう！

4・7全国同時アクション

公権力による弾圧を受け現在、裁判闘争を行っている全日建連帯労組関西地区生コン支部への支援・連帯活動を行っている「労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会」の主催で「4・7全国同時アクション 不当弾圧を許さない！決起集会」が4月7日(日)、大阪地裁前の西天満若松浜公園で開かれた。

集会では、実行委員会を代表して全港湾大阪支部委員長の小林勝彦さんが主催者挨拶を通じ「1審がほぼ終了し、これからは控訴審での闘いになる。必ず全員無罪の判決を勝ち取ろう」と語った。

次に、関西生コン支部委員長の湯川裕司さんが挨拶を行い「これからも皆さんと共闘しながら裁判を闘っていく」と決意を明らかにした。

続いて、集会に参加した各労働組合、市民団体代表からのアピールが行われた。

集会後はデモ行進を行い、道行く人々に「公権力による弾圧糾弾！」などを訴えた。

◆◆行事案内◆◆

光州精神を継承し民族自主を争取しよう！

光州民衆抗争44周年記念 在日韓国人全国集会

日時：5月12日(日)午後1時30分～

場所：じばさん三重(三重県四日市市安島1-3-18)

内容：映像資料上映

情勢講演 講師：金昌五(私・チャオ)韓統連副委員長

意見表明 他

主催：韓統連中央本部 TEL03-4362-5284

編集後記

第17期定期総会が無事終了し、新体制で5月を迎えました。これからいろいろな事業を予定しています。しっかりやっていきたいと思えます。よろしくお願ひします。(ソン)